

第6回静岡大学将来構想協議会

議事

(1) 静岡大学将来構想協議会のまとめ(案)について

(篠原座長)

篠原でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、協議会の開催は久しぶりですので、議事に入ります前に私から本日の会議開催に至るまでの経緯を説明いたします。

本協議会は令和2年1月の設置以降、委員の皆さんとは静岡大学の大学改革案について議論を重ねてきました。そんな中で、静岡大学の目指す将来像が地域の関係者に十分共有されていないのに法人統合・大学再編という具体的な手段を議論しているのではないかと、この課題が取り上げられました。このため、新しい視点を加えながら集中的に静岡大学の将来像について発展的かつ具体的に検討をする必要があると考え、9月開催の第4回協議会において新たにワーキンググループを立ち上げることを提案し、皆さんの御了解をいただきました。

ワーキンググループの構成は別紙名簿のとおりで、静岡大学の将来像を多角的に検討するため、各界から幅広くメンバーに入ってくださいました。農業関係者、商工業関係者、学識経験者、行政関係者にそれぞれ委員となっただき、また文部科学省や国立大学での事務を経験された高等教育行政の専門家などにオブザーバーとして加わっていただきました。ワーキンググループは11月から今月にかけて5回開催し、静岡大学の将来像について集中的に議論を重ねてきました。その結果、3月19日開催の第5回会議で、ワーキンググループとしての素案がまとまりました。そして先週、メール審議による第5回協議会として、委員の皆さんへ素案を送付し御意見等を頂戴したところであります。

本日は第5回協議会の結果として皆さんからいただいた御意見等をお示しし、併せて協議会としてのまとめの最終案を提示いたします。そして皆さんで検討を行い、最終的に協議会としてのまとめを行っていきます。

経過は以上であります。

それでは議事1「静岡大学の将来構想協議会のまとめについて」に入ります。

委員の皆さんは事前に御覧いただいておりますが、改めましてこのまとめ(案)の概要を御説明いたします。併せまして本日、御欠席の委員に関し、御意見等をいただいておりますのでそちらの御紹介もお願いいたします。

それでは説明をお願いします。

(事務局)

それでは、事務局より本日の資料について御説明いたします。

本日、皆様にお配りしている資料はこちら、A3の第5回静岡大学将来構想協議会意見集約と、同じく静岡大学将来構想協議会のまとめが2種類ございまして、上部に（素案を見え消しにしたもの）と書いてあるものと、もう一つは単純に（案）と書かれているもの、以上になります。

先ほど座長より御説明がありましたとおり、本協議会の下に設置されましたワーキンググループにおいて策定した協議会のまとめ素案について、先週、第5回協議会を書面審議にて開催し、各委員の皆様から御意見をいただきました。A3資料はそれをまとめたもの、2種類のまとめはそれを反映したもので、一つは修正等の箇所を見え消しにしたもの、もう一つは修正箇所をとけ込ませたものであります。

それでは、協議会のまとめの説明を行います。委員の皆様には第5回の書面審議の際、既に御覧いただいておりますが、改めましてこの協議会のまとめ（案）の構成について簡単に御説明いたします。

資料を開いていただきますと目次がございます。まとめの全体構成は、このような形になっております。それでは各項目について御説明いたします。

まず1ページ目、1. はじめに。ここでは協議会の設置の趣旨を、設置要綱を基に記載しております。その後、これまでの協議会での議論や浜松医科大学との法人統合・大学再編の時期の延期を受けた状況の変化などを踏まえ、今回の提言をまとめるまでに至った経緯について述べております。

続きまして1ページ目から2ページ目にかけての2. 地方の国立大学に期待される機能。こちらは国立大学に期待される機能について、主に国における国立大学に関する議論の動向等を踏まえて記載しております。多様な課題を抱える我が国にあって、国立大学が果たすべき役割、特に地方国立大学が目指すべき方向性等について触れております。

続きまして、おめくりいただきまして2ページ目から3ページ目にかけてでございます。3. 静岡大学のこれまでの取組。ここでは、これまでの静岡大学の歴史や今の体制、現在の教育研究の取組について紹介しております。

おめくりいただきまして4ページから5ページになります。4. 地域（静岡）が直面する課題。ここでは、静岡大学の将来像を考える上での前提となる地域の課題について取り上げております。ワーキンググループでの各委員やオブザーバーからの指摘を踏まえ、若年層における人口流出超過の抑止、中小企業の活性化、地場産業としての農林水産業の維持、高齢化を踏まえたウェルネス・健康長寿の推進及びSDGsの更なる推進と多文化共生の実現という5つのキーワードを挙げてございます。

さらにおめくりいただきまして6ページ目、7ページ目になります。5. 課題解決に向けた大学の取組と地域との協働（提言）。これまで述べられてきましたことを踏まえまして、協議会として静岡市及び静岡大学に対し取り組んでほしいことについて、7つの具体的な提

言で示してございます。①から③までは、大学の教育研究や人材育成に対する提言でございます。①は学部を中心とした取組。②はワーキンググループでも御意見をいただきました、中小企業や農業の振興と社会人リカレント教育の推進等、また主に大学院を中心とした取組について。③は健康長寿社会や、ポストコロナといった社会生活の大きな変動に対応する人材育成に向けた大学間連携を中心とした取組でございます。④に移りまして、留学生教育の充実や多文化共生社会に貢献する取組。⑤は、これからますます重要となる産学連携・地域連携について、それぞれでございます。また複雑化、多様化する近年の課題を踏まえ、静岡大学単独で課題解決に取り組んでいくことは困難であることから、県内の国公立大学や自治体、産業界、金融業界などのあらゆる知見を集結する必要がございます。⑥、⑦はそのための連携の必要性を述べたもので、⑥は他の大学等県内高等教育機関との連携。⑦は自治体や産業界等関係機関との連携強化のためのプラットフォームの構築について、それぞれの提言となっております。

おめくりいただきまして、最後の8ページ、6. おわりに。ここでは最後にまとめをさせていただきます。静岡大学には本協議会での議論を踏まえ、静岡県高等教育機関としての役割をより積極的に担っていただきたいということ、そのために大学が持つ力を最も効果的に発揮できる教育研究体制について、未来志向の議論を進めていただきたいこと、県内高等教育機関や自治体等関係機関との連携を強化していただきたいことなど、これまで述べてきたことを総括してございます。

協議会のまとめの構成についての説明は以上でございます。

続きまして、委員の皆様からいただきました意見等集約についての御説明でございます。それでは、こちらのA3の意見集約のものともまとめ、素案を見え消しにしたものの資料の両方を御覧いただければと思います。

A3資料は、委員からいただいた意見等の一覧でございます。表のうち黄色い部分は御意見を踏まえ本文に反映させていただいたもの、グレーの部分は表記の統一性などの観点から修正せずに原案どおりとさせていただいたものでございます。黄色い部分については、協議会まとめの素案を見え消しにしたものに赤字で、見え消しの形で修正を入れてございます。そして、修正をとけ込ませたものが最後の（案）になります。

反映させたものについて簡単に御説明いたします。

A3の意見等集約の表の番号で言いますと4番目、ページ数で1ページ目の14行目から15行目でございます。このところで文言として「当初計画していた令和4年4月の新法人・新大学としての学生受入れに拘わらずに」という表現の「拘わらずに」という表現が、いまいち分かりにくいという御指摘に基づきまして「とらわれず」という表現のほうがよろしいのではないかと内容でございました。ここにつきましては、令和3年1月に静岡大学・浜松医科大学の両学長が記者会見を行いまして、その際に発言された統合再編延期に関する発言の内容を踏まえて記載しているものでございますが、分かりにくい表現もございました

ので「拘わらず」という言葉を平仮名表記に修正させていただきました。

続きまして5番目、1ページ目の14行目から15行目。こちらにつきましては、原案のところに書いてあります「当初計画していた令和4年4月の新法人・新大学としての学生受入れに拘わらずにさらに充実した大学改革を実現するための議論を深めていく」というところに、かぎ括弧をつけたらどうかという御指摘でございますが、これはこのまま修正いたしたいと思っております。

続きまして7番目から9番目、ページ数で言いますと1ページ目の31行目から2ページ目の6行目に至るところでございますが、ここは具体的な例示について番号を①、②、③と振ったほうがよろしいのではないかと御指摘でございますが、これもこのような形にしたいと思っておりますが①、②、③を別のところで使用しているため、1)、2)、3)とさせていただきます。

続きまして10番目、4ページ目の25行目から26行目でございますが「販売農家数について、平成27年には」となっておりますが、これを「販売農家数が平成27年には」と修正されたらどうかという指摘ですが、これはそのまま、このとおりに修正したいと思っております。

次にA3の表、次のページでございます。11番目、6ページの25行目から28行目でございますが、ここは学部の取組を中心とした静岡大学さんの今後、取組強化として提言している部分でございますが、ここに地域創造学科、静岡大学さんが設置しております学部横断型教育プログラム地域創造学環の充実についての文言を入れたらどうかという提案でございます。これにつきましては、御意見をいただきまして「地域創造学環で行われているような教育内容の充実強化が必要」という趣旨の文言を入れさせていただきました。

反映いたしました修正箇所は以上でございます。なお本日、所用により瀧委員が御欠席でございますが、瀧委員からは事前に御意見をいただいておりますので本日、この場で読み上げさせていただきます。

「総合大学である静岡大学は私ども地元の誇りであり、これからも静岡県の中心となる大学として地域を牽引していってほしいと考えています。今回の取りまとめの案は、そうした私たちの思いを反映していただいたと考えています。静岡大学には提言の内容をしっかりと受け止め、現行の案にとらわれることなく、新学部の設置や静岡・浜松の枠を超えたオール静岡県での連携強化など地域の住民にとってメリットのある取組をお願いします。併せて静岡大学には、これからも静岡市を初め地元関係者へ丁寧に説明していただき十分な理解を得た上で進めていただくことをお願いします。」

瀧委員からの意見は以上でございます。

先ほど私の説明で1か所、誤りがございましたので、この場で訂正いたします。A3の意見等集約表の4番のところのまとめで、1ページ目の14行目から15行目で私、修正後の内容を「かかわらず」と申しましたが、「こだわらず」でございます。失礼いたしました。

説明は以上でございます。

(篠原座長)

ありがとうございました。

それでは、皆さんからいただきました御意見等も踏まえまして、最終案の検討を行ってまいります。検討の方法ですが、今日は2つに分けて進めようと思います。最初に先ほど御説明いただきました、事前に出された意見の部分について検討を行います。

次に、事前提出以外の部分で追加の意見や全体を通しての意見を出していただき、それらについての検討を行います。

最初に事前に出された意見の部分からです。それでは事前に出された意見の中で、どのようにお考えなるか、あるいはまださらにこの辺りは訂正したほうがいいのではないかというようなことがありましたら、ぜひ御発言ください。

(小長谷委員)

はい。

(篠原座長)

どうぞ。

(小長谷委員)

全体としてワーキング等を含めて私どもの意見を反映させた、非常に精度の高い内容になっているかなと私は思っております。

先ほど事務局からも説明がありましたように私どもの、私の意見も出させていただいたところについて説明があったわけですが、お手元の6ページ、協議会のまとめ資料の6ページの25行目から28行目にかけて、学部を中心とした取組というところについての記述があります。現在、静岡大学が進められている地域創造学環は非常に学部横断的な取組、文理融合ということで非常に、これは先進的な取組をいろいろとなさっているのではないかなと、私どもは非常に評価させていただいているところでありまして、これからはぜひ学部横断的なそういった文理融合、特にこれからは文系だとか理系だとか、そういうことではなくて文理融合の学部横断的な取組は非常に大事ではないかなと考えているところであります。ちょっとこの今、地域創造学環を取り組んでいるというところで、実際に行われているところに赤字で地域をフィールドとした実践的教育プログラムの充実強化と記載されておりますけれども、できればもう少し具体的に、学部横断的な地域創造学環等の充実強化とか、そういうようなことで具体的に分かりやすく明示していただいたほうがいいかなと思っております。

以上です。

(篠原座長)

その場合、例えばどこへ、どんなふうに入れたらとかは。

(小長谷委員)

そこに、地域をフィールドとした、というところですか。

(篠原座長)

赤字で。

(小長谷委員)

赤字のところをもう少し具体的に、特に学部横断型教育プログラムである地域創造学環の充実強化みたいなのところを、フィールドというところに、これを具体的に入れていただいてもいいと思いますけど、教育プログラムなどを実践して行っている学部横断的教育プログラムの地域創造学環の充実強化をしてもらいたいみたいな、もらいたいというか、充実強化でいいと思いますけども。そんなような内容にしていただければよりここが明確になるかなという、私どもが考えているのは、学部横断でいろいろとこれから文理融合でやるよという、そこを明確にして、地域フィールドに出るという地域重視型も、それも当然重要でありますけれども、学部横断というところが一つの肝かなと考えております。ぜひ強調していただければと考えています。

(篠原座長)

これについては、いかがですか。よろしいですか。

(丹沢委員)

ありがとうございます。

やはり学部横断とか文理融合とかはキーワードだと私も思っております。ただ、地域創造学環を書き込むかどうかは微妙なところがありまして、今の地域創造学環は、大学では学部相当の組織として扱っていますけれども、文科省、国には本当に教育プログラムとして立てているだけなので、こういう言い方をしたら失礼ですけども各学部の先生方が寄せ集め的に集まって運営しています。そのために、なかなか安定した運営ができないという困難も一方で抱えておりまして、ですので地域創造学環を今後どうするか、例えば性格を変えないにしても学位プログラムというもう一段上の拘束力の、教員への拘束力が高い、責任をもっと持たせた組織にするとか、もう一つのアイデアは、学環そのものを文理融合の学部にしてしまうというアイデアも出ています。だからその辺、いろいろな選択肢が幾つかあるものです。

から、理念を書いていただくのはすごくありがたいことですが、学環という名称はあまり書かないほうがいいかなと、私は。

(小長谷委員)

なるほど、分かりました。今、キーワードとして文理融合、それで学部横断的というところは少し明示していただいとすることで、その例示として今、地域創造学環のプログラムとしてなさっているということですが、あるかなと思ったものですから、そこは表現はお任せしたいと思っています。

(丹沢委員)

ありがとうございます。

(篠原座長)

要するに理念が入っていればいい。

(小長谷委員)

そうです、そうです。

(篠原座長)

それで理念を具体的にするものとして、学部横断や文理融合みたいな形、言葉は欲しい。

(小長谷委員)

そういうことです。

(篠原座長)

分かりました。

ほかにございますか。

(今井委員)

意見を出しましたので。

(篠原座長)

そうですね、後で説明を。

(今井委員)

この字は、この漢字はやはり「かかわらず」と読めますよね。

(篠原座長)

そうですね。

(今井委員)

それは文意が違おうだろうなというのが、結局修正したのを「こだわらず」は全然問題ないと思います。最初はこれ「かかわらず」と読んでいたものですから、「かかわらず」にすると学生の受入れはしますよと、それにもかかわらずさらに議論を続けますよと日本語としては読めると僕は思ったもんですから、これはまずいだろうなと思って意見を出させていただきました。それからもう一つ。

(篠原座長)

一つ、この関係でちなみにこれ、かぎ括弧の中ですけれども、もともとは「こだわらず」ですか「かかわらず」ですか。何か浜医大と静大の間の中から。

(今井委員)

それは、私は存じ上げていないですけども。

(篠原座長)

いやいや、事務局にお聞きします。こちらのほうがいいんじゃないのかな、静大事務局のね、これ、もともとは「かかわらず」。

(事務局)

「こだわらず」でございます。

(篠原座長)

「こだわらず」ですか。それじゃあ問題ないです。

(事務局)

漢字とすれば両方の読みがありますけれども、より明確にするために平仮名表記をとったということでございます。

(篠原座長)

それでは、問題はありません。

(今井委員)

それからもう一つ、直接は関係ないですけども、始め2行、上からずっと読んでいきますと、法人統合はしますよとも少し読めたものですからね、そこら辺が後で質問事項を出させていただいたことです。法人統合も見直しをして、考え直すということであれば何の問題もないと思いますけども、法人統合はしますけども大学再編はしませんと少し読める気がしたものですから、それは意見というか、質問を出させていただきました。

(篠原座長)

ここですか、15番の質問。

(今井委員)

質問ですね。

(篠原座長)

ナンバーで言うと15番のところですね。

(今井委員)

そうです。

(篠原座長)

座長としてワーキンググループにも関わった立場から話させていただきますと、今回、大学の案について賛成・反対という議論はしていないので、ここにもありません。意見として法人統合、大学再編を含めた議論を行ってきたことと、法人統合することを理解すること、これは議論の中でこういう形だったという、そういう表現だと思います。あるいは、この部分ともう一つに静岡キャンパス側が分かりにくくて理解しかねるという意見と、この二つがある意味、並列で書いたような形ですけども。特にどちらかを賛成・反対とかいうわけではないです。

(今井委員)

意見というわけじゃないですけども、ここの15番で指摘した部分ですけども、そこで言われている静岡大学と浜松医科大学という表現ですけど、それが法人統合していない状態の現行のものであることがはっきりしていれば何の問題もないと思います。そういう趣旨です、これは。

(篠原座長)

分かりました。

ほかに何かございますか。あと、御意見としてたくさんいただいた柴田委員はどうか。何か思うように直っていないとか、あるいは何かそういうことがもしあるようでしたら。

(柴田委員)

内容的にどうのこうのはなくて、ただ、文章を読んでいますと修正していただいた箇所ももちろんありますけども、特に大学の、これは提言の中にいろいろと①からずっとありますが、気になったのは「のために」という言葉がぽこぽこ入ってきて、意味はよく分かりますけども、読んでいくとどいかなと。そういう意味と、自分なりの読みやすさをした場合はこのほうがいいんじゃないかということで意見という形になりましたけども、ですから深い意味はありません。

(篠原座長)

分かりました。文章的に、まだこなれていないと言ったらそうですが、そういうようなことであるなら、改めてこのところだけはということがありましたらぜひおっしゃってください。

ほかに何か修正、あるいは意見の部分について何かございますか。ほかの方の意見、このところというようなことがありましたら。

(小長谷委員)

全体を通して。

(篠原座長)

もうちょっと待ってください。その前に、今の訂正のところだけ。

それと先ほど小長谷委員から話がありましたところ、文章を入れたり何かすることについては、後々私、座長とそれから事務局で意見を入れて直すというようなことでよろしいですかね。今、一つ一つやっていくのは大変だと思うので。

それでは1番目の、事前に出された意見の部分に関する議論はこれで終わりにしましょう。

次に、事前に出された意見以外に追加の意見や全体を通しての意見がございましたらお願いいたします。

どうぞ、小長谷委員。

(小長谷委員)

8ページ、当協議会のありようについてでございますが、特に22行目、本協議会の趣旨を

継承した場を継続していくことが望まれるという、この表現であります。これは、これから私どもが、この協議会が今日、これまでの議論を踏まえて取りまとめという方向になるわけです。ただ、文科省の通達等にもあるように、地元の理解を得てというところが根本にあると思います。一定の方向性で私どもの意見集約という、こういう形でまとめさせていただいて、あとはまた大学側の自主的な御判断に委ねられて、どういう改革をするかがあるわけですけれども、やっぱりこれからも改革の内容なりが地元の意見の声を、キャッチボールをするような場が必要ではないかなと私は考えておりました、引き続きその場について、そういったところについてきっちり明確に示していただくことができれば私どももありがたいなと思っておりました、例えば「本協議会の趣旨を継承した場を継続していくことが望まれる」というようなことですけれども、「本協議会の趣旨を継承した場を継続し、引き続き地元の理解を得ていくことが望まれる」とか、そういうようなところをもう少し明確に示していただけたらなと思って、特に地元の理解というところ、そういった言葉をこういったところにもう少しきっちり明示できないのかなと思っていました。

以上です。

(篠原座長)

これについて皆さんの御意見をお伺いしたいですけれども、いかがでしょうか。
野田さん、何か思うところはないですか。

(野田委員)

よろしいですか。

ありがとうございます。前提として、ワーキンググループを5回も開催いただきまして、座長には大変御尽力いただき、またこのように非常に思いのこもった取りまとめをいただいて本当にありがとうございます、と先に申し上げたいところでございます。

そういう意味で原案に関しての意見は、中身も実は事前に静岡大学からもよく御説明いただきまして、全て理解できるところでありましたので、そういう意味で今日、実質は最終の協議会になる中で、取りまとめの中で少し意見としてお伝えできればなと思っていたことをお話しさせていただきますと、まず今回の将来構想協議会は本当に必要な場であったなと思っております。目的としては今、大学統合についてやり方を決議する場ではないということからももちろんスタートしたわけですけれども、本来何のためにやるのかを、明確にビジョンを持ってということも、もちろん大学の中ではいろいろと議論されているわけですけれども、今このように、おっしゃっていただいたように、やはり地域との連携が非常に重要な中で、そういった対話がなかったなということからスタートしたと思いますね。なので本当にありがたく、静岡市の皆様にも、そういう意味では田辺市長からも御指導いただいたと思いますけれども、こういう機会を設けることを大学側と合意して、大変お忙しい先生の皆

さんに御協力いただきながらできたのが本当によかったなと思っております。そういう意味でここに提言でおまとめいただいた①から⑦は、もうまさにそのとおりでございまして、実はこの視点からは大学内でも様々ディスカッションなり議論なりが行われておりましたし、今回、学長が代わられますけれども、方向性として全くもってこれに反することなく、ある意味、この挙げていただいたところに沿って議論が進められていると、外から見てですけれども私自身は感じております。

一つ加えていただきたいところですが、提言の中に先ほど小長谷委員からもお話がありました、静岡県内の例えば私立大学、自治体、産業界、金融業界のあらゆる知見を集結して進められるべきものであるとお示しいただいていますけれども、これに関してはもちろん大学もそうですけれども、以前、私、申し上げていましたが、法人、一法人にしたときに、法人のあり方もものすごく求められているのかなと思っております、各大学が個々にできる分野と、法人にしたからこそできる分野が実はあると思っております。この辺の産官学金連携は、まさに法人の役割が大変大きくなっていくかなと思っておりますので、もちろん2大学のあり方という議論になってはいますけれども、やはりそれを支える一法人のあり方に関して、もちろんこういう議論は別にこの場で終わるわけではないので、逆に提言のところで法人のあり方に関するものも入れていただいているといいかなと思っておりますので、その一点を申し上げたいと思います。

(篠原座長)

ありがとうございました。

先ほど話に出た、法人統合についてはあまり反対がないというか、だからこそ法人のあり方をもうちょっと言及しておいたほうがよかったと、そういうことですね。

(野田委員)

そうですね。そこは加えておいていただいたほうがよろしいかなと思います。

(篠原座長)

その部分はどういうふうにか考え、文言なんかが難しくなるかな。ちょっとだけ待ってください。

学生さんとして、例えば今の御意見なんかを含めてどうですか。

(伊藤委員)

まずこの協議会の場所、設置についてですけれども、本当にこういった場所がなければ当該学生としても統合再編のことについて考える機会はなかったと思いますので、この場所があったことは本当にありがたく思っております。

今の法人統合と再編に関することですけれども、やっぱり分かりやすくそれこそ学生へも分かりやすく提示するためにも、協議会の中でもお話があったと思いますけれども、例えば新法人を設立した場合とか大学再編の規模とか、そういったもののシミュレーションをすることによって、そこが見えたほうが何か学生にも分かりやすく、それこそステークホルダーの皆さんにも分かりやすい形で提示できるのではないかなと思います。

(篠原座長)

分かりました。ありがとうございました。

小長谷委員、ワーキンググループでのこの間の話をぶり返して申し訳ないというような気もありますけども、本協議会の趣旨を継承した場を継続することについては、全然問題ありませんね。

(小長谷委員)

はい。

(篠原座長)

ただ、地元の理解が得られるようにという前提をつけちゃうと大学を縛らないかと、この間議論があったと思いますけど、私、何でも地元の意見がどんどん入ってくるのは、いかかかと。

(小長谷委員)

そうですね、そのトーンの示し方がちょっと私の場合、きっちりというところがありますけれど、そこは皆さんの御意見の中で。ただこの協議会は一応、本日、一定の取りまとめをして終了ということですけども私どもは、反省もそうですけれども、やっぱり静岡大学との関わりは、これまであまりしてこなかったという、私ども、静岡市としても非常に反省しているところですし、ぜひ地域に根差した大学であってほしい、高等教育機関であってほしいと。そういうこともあって、ますます行政としても静岡大学の持つ知見、知力みたいな、そういうところが非常にこれから大事ですし、その連携が大事だなと思っていますので、また、ありようとしてもそういうことですし、今回も一応キャッチボールでボールをお返しするわけですけども、またそれは大学の自治とか独自性の中で最終的には大学側に決定権限があるわけですけども、ただそれだけでいうとちょっとどうかなと。ですから今後も引き続き私どもというか、地域とのつながりも大事にさせていただいて、理解を得る努力をしていただきたいという、そういうような意味合いで決して縛るものではありませんけども、その辺の言葉のニュアンスはお任せしますけど、私が言わんとする趣旨はそういうことで、これで終わりじゃないよということについて、ちゃんとどこかで明示して、もう少し強調した言

い方でここをまとめることできないかなという趣旨であります。

(篠原座長)

唯一気になるのは、理解を得られるように、ということなんです。

(小長谷委員)

得られるというそこは、得られるが一応、理解はもう少しぼやかした言葉で、どういう表現がいいのかはあれですけど。

(篠原座長)

どうですか。日詰先生には聞きにくいような気がするけど。表現としてはどう、要するに小長谷委員がおっしゃるように、地元の意見がちゃんと届くような、意見のキャッチボールができるような、そういう協議会かどうか分かりませんが、そういう場を継続していきたいと言うけど、そのところであまり、しかも協議会の意見がちゃんと理解を得られるようにという、理解を得られるようなものを出すのか、大学が理解しなきゃいけないのかがあって、そのところは縛るような気が僕はしたので、前回のワーキンググループでもちょっとだけ話しましたが、今の話だと縛る話じゃない、ということなので、それならこういう記述はよかったですけど。その辺はいかがですか、聞きにくいですが。

(日詰委員)

今、静岡大学としてもやはり地域のニーズをくみ上げていくことをとても大事にしなければならぬことは皆さん、認識していると思っています。ですから、どこに地域のニーズがあるのか、そして地域のニーズに対して大学が持てる資源をどこまで活用できるのかといった検討・議論は当然できると思います。ただ、やっぱり静岡大学、単独の資源ではお答えできない部分も場合によってはあるかもしれません。その辺りも含めて本当にいろいろな議論といいましょうか、静岡大学としての立場も御理解いただけるような、そういう場というのでしょうか、検討の場というか、そういうものを設けることに関しては、やはり大学としても地域のニーズを踏まえるということからすれば必要なところでもあるのではないかなと感じています。

(篠原座長)

分かりました。入れる方向で考えます。

(小長谷委員)

言葉はお任せ、一任いたします。

(篠原座長)

縛るという表現は・・・。

(小長谷委員)

そうですね、おっしゃるとおりでよいと思います。

(篠原座長)

それと、ちょっとペンディングになった法人への言及、どんなふうと言及すると、この提言でどういうふうと言及していけばいいでしょう。

(野田委員)

そういう意味で、付け加えてというお話ですが、この提言、おまとめいただいた御提言の中の⑦です。今の地域、コミュニケーションも含めての連携というところには非常に重要なことが書かれていまして、要するに地域の課題解決に向けた連携の抜本的強化を図るための恒常的なプラットフォームの創設、これはすみません、どういう趣旨で御提言が出てきたかという背景をもう少しお聞きできればなと思っていますけれども、私のイメージですと、まさにこのプラットフォームの創設が一つはやっぱり法人が主となってやっていけるような内容ではないかなと思ひまして、そういう意味でここの⑦のところをもう少し、その背景と、この御発言を取りまとめていただいた背景をお聞かせいただければなと思ひましたけれどもいかがでしょう。

(篠原座長)

ここのところは坂本先生の意見です。

(野田委員)

坂本先生ですか。

(篠原座長)

ワーキンググループに出ていらっしやったからですけれども。

(丹沢委員)

これ、プラットフォームという言葉が使われていますけれども、国でも地域連携プラットフォームという言葉を使っているわけですが、現在、静岡県にはふじのくに地域・大学コンソーシアムという、産業界は少ないですけれども県内の高等教育機関は全部、それから自

治体も相当、静岡市を含めまして8割程度が関連していただいているでしょうか、それに産業界が一部入って、まさにここで言うようなプラットフォームは現在、実現していると言えます。ただ、それがここで言うような、あるいは国の言うような地域連携プラットフォームとしてきちんと機能しているかというところでは議論が若干残る。例えば典型的なのが産業界の参画が非常に少ないということがありますし、資金運用的にも、ふじのくに地域・大学コンソーシアムは静岡県さんがかなりお金を出していただいている、大学も負担金を出しておりますけれども、そこはお互い対等な立場で地域課題に総がかりで取り組んでいくという意味では、さらにきちんとしたプラットフォームを考えていくことが大事だろうなと思っています。

そうなったときに野田委員がおっしゃったように、それがそれぞれの大学で参画するものなのか、あるいは法人として、その理念を明確にして法人としてプラットフォームへ積極的に関わっていくのかは議論が分かれるところかなとは思っております。ですので、何とお答えはないですけれども、現在、法人統合・大学再編の連携協議会で法人の機能が大体はつきりしてまいりましたので、そちらの議論を受けてこれからは日詰先生がそちらの会合へ出られるわけですが、そこでの法人の機能等を明確にした上で、この辺の話は姿が見えてくるのかなという気がしております。

以上です。

(野田委員)

そこが一番気になっておりましたところでして、やっぱり大学は、どういう形で大学が新しい方向性を持ってやっていくか、いろいろと御提言の中にも書かれておりますように、学部を中心とした取組とか、大学院を中心とした取組とかが様々、大学間の連携もあると思えますけれども、どちらかと言うと教育コンテンツというか、やはり研究分野、教育コンテンツの強化とか、地域の課題を解決するためにどういうコンテンツを提供していくのが大学サイドとしては主になってくるのではないかなと思います。ですから、例えばこういったプラットフォームを構築して、そこでうまく地域との連携、いわゆるビジネスマッチングじゃないですけど、それを連携させていくような、産業界にもっともっと参画していただかねばならないですし、それこそ未来社会デザイン機構の役割なんてものも大きく関わってくるかと思えますし、そうすると大学はもちろんですけれども、地域連携を見越したプラットフォームを推進していくための機能が果たされねばならないかなと思ってまして。これは大学がやるというよりは、やっぱり今回再編することになる法人が主体になってやっていく役割なのかなと思えたのでちょっとその辺りを、もちろんこれから構想として考えていくと思えますけれども、そういう方向性も考えてみたらいいのかなと思いました。

(篠原座長)

その辺、またお話しさせていただくというような、言葉の使い方についてはまた預からせてもらって。

(野田委員)

ここの御提言に入れるかどうかという、別にしてということですね。

(篠原座長)

入れるかどうかは別にして。

(野田委員)

はい。

(篠原座長)

入れるとしたらまた相談して、どんな形がいいかをお伝えいたします。

それから今井委員、先ほどもちょっと伺いましたけれども、国公立・私立も含めて連携という話が出てきまして、せっかくいらっしゃるのにほっておくわけにいけないので伺いたいですけど、こういう感じで静大も入ってくると県大も入りやすいよとか、そういうことはあるでしょうか。

(今井委員)

それは大学それぞれ個性がありますので、その大学の個性を生かした形で連携するのが私たちの立ち位置です。ですから、全面的に静大の傘下に入るとか、そういうふうなことは考えていません。

(篠原座長)

傘下とは言わないけど、分かりました。

(今井委員)

ただ、やはりお互いに持っていないリソースがありますからそれで、その中で協力できることはぜひ協力したいと思いますし、それは近いうちに間違いなく起こると思いますね、そういうことに関して。それであと地域の話ですけれども、ちょっと違う話かもしれませんが最後の提言のところの、最後の一文は非常にいいですよ。これ、8ページの最後の1番、つまり地域で連携する目的は何も地域で閉じてはいないと。ですから、いろいろと書いてありますが、結局は静岡から世界につながるような議論をしたいと、というふうにこの文を読むとすると、それは非常に前向きですし、それを静岡大学も県大もそういうふうに思ってい

と思います。その気持ちというか、意気込みをぜひ忘れないようにするのは大事ななと思いました。この最後の文章は非常にいいと思います。

(篠原座長)

傘下云々じゃなくて国公立の提携を含めて、この文で特に問題はない。それで、最後は特にいいと。

(今井委員)

そうですね。だから、今後もまだ詰めなきやいかんことがたくさん出てくると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

(篠原座長)

分かりました。

たまたま松永さん、まだ今日は発言していないけど何かありますか。

(松永委員)

5回のワーキンググループでやった内容について、5回目にいろいろな意見が出て、それで、こういう形で篠原座長を中心に事務局の方まとめていただいてすごく分かりやすくなった。特に今の提言のところで後ろに、取組のところで括弧書きしていただいたのを全部統一した形で、何々した取組という形にしてくれたことで非常に明確になったと思います。その中で1点だけ、4ページの中小企業の活性化のところ一文を入れていただきたいなと思ったのが、私の発表の中で中小企業の課題としては、人材の確保と事業承継と生産性の向上とIT化ということで説明させていただいたと思いますけれども、これを読んでいくと20行目のところは人材確保と事業承継、具体的に入れていただきましたけれども、21行目のところで「生産性を向上し、その体力を維持していくためには」ということで、そういった経営手段を身につけた人材を中小企業に定着ということだけにとどまっているので、ここに「IT化の推進」も並列していただきたいなと思います。そのことによって次の6ページ、④の2つ目のポツのところにIoTとかDXの関係が出てつながりますので、先ほど6ページの22行目、中小企業に定着させるとともにIT化の推進が必要であるという「IT化の推進」をぜひ入れていただきたいなと、ここでお願いしたいと思います。

(篠原座長)

これは別に問題ないですね、いいですね。分かりました。

ほかに何か付け加えたいこと、あるいは、改めて見たらやっぱりおかしいなと思ったようなこととかがありましたら。

(伊藤委員)

提案みたいな形ですが、よろしいですか。

(篠原座長)

どうぞ。

(伊藤委員)

8 ページ、6 番の終わりのところ、7 行目です。静岡大学には、本協議会での議論を踏まえ多様な学生が主役となる学生視点での大学の魅力を高め、静岡県にある高等教育機関としての役割をより積極的に担っていただきたいという文言がありますけども、この中で学内で決まったものに関して学生へ提示する前に、検討する前に学生の声が聞ける場をぜひ設置していただけるようなことをしていただきたいなと思います。一つ、静岡新聞に以前書かれていた記事がありまして、この中に大学再編に学生の発言権をというテーマの記事がありまして、この中の最後のほうに統合再編に関して歴史のある静岡大学、浜松高等工業学校から受け継いだ理念、自由啓発とは自由な環境で個性を尊重し、才能が発揮される教育ではなかったのか、未来創生を目指すのであればもう一度、原点を見直してほしいと、大学に私たちの代弁者がいない、学生にも発言権が欲しい、想いと伝統が存続することを願うばかりであるという形で、これは学生の方が意見を書かれている記事でありまして、こういった声を拾って学生の思いとか、実際に学生もこの静岡大学に在籍している以上、ここで何らかの結果を求めて共に発展していきたいという思いもありますし、また教授の方々も、コロナ禍において本当に大変な中で、私たち学生に対して本当に工夫しながら、とても分かりやすく講義を展開していただいています。教授の皆様方も、そういった方々の声を少しでも拾っていただいた中で本当に、先ほど今井委員からもありましたけども、日本から世界につながるような視点での、世界に発信できるような、そういう大学を構築するためにも学生の声を、教授の皆さんの、ステークホルダーの地域の方々とか、そういったステークホルダーの意見を聞く場所を設置していただきたいと、何か少しここで付け加えていただくとありがたいなと思います。

(篠原座長)

今、学生の意見はどのようにして大学に届けていますか。昔は自治会とか、いろいろとありましたけれども。

(伊藤委員)

実際、私は今度から3年生なので、2年生のときは本当に1年間、コロナ禍で学校に行く

時間が本当に、登校したのが年間で2日か3日ぐらいしかなかったですけど、あとはオンラインという形で授業、講義を受けさせていただいた中で、やはりコミュニケーションをとるのはすごく大変な1年間でした。なので、できる形で、SNSとか、そういった形でコミュニケーションをとっていたという現状だったので、学校に行ってこういったコミュニケーションをとれなかったことによって、こういった学生の声を私自身は委員として拾えなかったことは本当に力不足だったなと思っています。でも、何かこういった形で新聞記事に投稿される、こういった方の思いも拾っていただけるような、そういった場所を構築していきたいなと思っています。

(篠原座長)

すみません、また丹沢委員へですけれども、そういう学生の意見はどんなふうにして、すくい上げるようなシステムというとおかしいけど、コロナだからだめでしょうか、それは。

(丹沢委員)

いやいや、そもそもこれ、大学改革にどの程度学生の声を反映させるか、当然のことながら学生は世の中の動きを必ずしもしっかりとつかんでらっしゃらないのは当然ある。本当に、教育を受ける立場としての一人の声はとても大切だと私も思っています。今回の統合再編に関しても静岡キャンパス、浜松キャンパスで、コロナ騒ぎになる前に学生との対話集会みたいなこともやりました。それで浜松のときは学長と一緒に私も行きましたけれども、学内に呼びかけましたけど、来たのが十数名ぐらいで全然、人が集まらないです。そういう実態があって私は非常に失望しましたが、だから伊藤委員のように意識の高い方は来る、一部です。なかなか、多くの学生たちの声を拾うのは結構大学としては困難です。やっぱり学生の声は教員を通じて上がってくるということはあるんですけど、なかなか直接的に学生の声を拾い上げる場をつくるのに苦労したのが現実的にありました。そのところは次の日誌執行部、当然のことながらまた声を拾い上げていくことはして下さるとは思いますけれども、そのところで工夫が必要だろうなという印象を持っています。

(篠原座長)

そういうことを、例えば提言に触れるとしたらどういうところで、どんなふうな形で、今のところで何か触れればいいですか。7、8行目辺りに。

(伊藤委員)

例えば本当に今、丹沢委員がおっしゃったとおり声掛けをして来られる方は少ないかもしれませんが、でも思いがある方はむしろそういった場所があれば参加したいという方は絶対にいると思いますし、私も存じ上げなかったものですから参加できなかったですけど

も、もしもそういったことが分かっていたら参加したいなと思っていましたし、少しでも学生が見やすいような形で、拾えるような形で、なかなか難しいかもしれませんが例えばシラバス、そういったところとか、学部情報システムとか、そういったものをうまく活用する中で、一人でも多くの学生の方に知ってもらって、それで集まった人数の方でもぜひそういった形で何か開催できるようにしたいですけども。

(篠原座長)

提言の中に多様の学生、主役となる学生視点での大学の魅力を高めとあるので、これだけじゃあ足りなくて、何かもうちょっと具体的な何か欲しいかどうかという、提言をどうしようかということですけども、その辺はいかがでしょうか。

(今井委員)

よろしいですか。

(篠原座長)

どうぞ。

(今井委員)

ピントが外れたことになるかもしれないですけど、学生の自主的な活動は結構パワーを持っています。それで、県大でも文化祭ができなくなっちゃったので、ぜひバーチャルの文化祭をやるということで、学生が声を上げて、それを学生室が支援したりして大学としても支えましたけれども、それで随分、ユーチューブなんかに入れて各部活動の紹介とかをやりました。結局、そういうものが大学として共有されるには、学長です、重要なのが。学長のところでそういうことを励ますとか、悪いことをやってもらいたくはないですけど、いい活動で自主的にやったものについては、アドバイスを与えながら励ますのは非常に、一つの手かもしれません。そういう活動は結構出てくると思います。多分、静岡大学さんでもやってらっしゃると思いますけど、そこをうまく使ってコミュニケーションをとるのは一つの手かなと思いましたけど。

(篠原座長)

何か入れるなら、また文言を考えますけども、こここのところでよければ学長さんをお願いする形で。

(今井委員)

そうですね、どうやって書いたらいいかはありますけどね。

(篠原座長)

ペンディングにしてもいいかな、後でまた相談させてもらって。

ほかにございますか。それでは皆さんからいただきました御意見等も踏まえまして、協議会としてのまとめとさせていただきます。

ただ、先ほどから3点ぐらい、文言を入れるとか、あるいは新たに法人の役割なんかについての言及も入れたほうがいいんじゃないかと、今、言った学生の意見をどうするかというような話がありますので、そのところ、改めて情報交換をしながらいい文言を考えて正式な提言というか、まとめにしたいと思えますけども、それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(篠原座長)

分かりました。異議がないということで改めて事務方と相談して、できたものはまた皆さんに送付しますので、もしそれでさらにありましたらまたいただくというようなことでよろしいですかね。

(異議なし)

(篠原座長)

ありがとうございました。それでは、そのような取り扱いといたします。

なお、このまとめにつきましては協議会の設置者である静岡大学及び静岡市へ報告するものであります。本日は静岡大学からは丹沢理事・副学長が、それから静岡市からは小長谷副市長がいらっしゃいますので、先ほどのまとめをもちまして両者への報告とさせていただきます。よろしいですか。

(丹沢委員)

はい。

(小長谷委員)

はい。

(篠原座長)

もう一点。これまでの間、協議会の開催概要について、その都度、文部科学省へ報告しておりました。このたび協議会としてまとめることができましたので、このまとめを文部科学

省へ報告していただきたく考えますけれども、今まで報告は小長谷委員にお願いしてきました。小長谷委員、今回はいかがでしょう。

(小長谷委員)

ぜひそのような形で、これまでも文科省に報告させていただきましたので、取りまとめの一番の重要なところですから、再度、文科省には私どもから報告させていただきたいなと思っています。

しかしながら、私ごとになりますけれども3月末で副市長の職を退任させていただくということでありまして、本当に皆さんにはお世話になりました。ありがとうございました。後任の大長が副市長に就くわけですけれども、また大長にはきっちりその旨を引き継いでいきますので、文科省には大長からきっちり報告させていただければと考えております。

(篠原座長)

それでは、この正式なまとめができたときに皆さんへお渡ししたら、その後か、文科省へ行くのは。

(小長谷委員)

4月になってからになると思いますね。

(篠原座長)

文科省への報告も、改めて皆さんへ報告できるように。

(小長谷委員)

そうですね、その結果についてはまた、書面か何かでまた。

(篠原座長)

そうですね。

(小長谷委員)

御報告申し上げたほうがよろしいかなと思っていますので。

(篠原座長)

分かりました。ありがとうございました。

そのような取り扱いにて、よろしく願いいたします。

本協議会は本日が最後となります。つきましては閉会に当たりまして委員の皆さんから一

言ずつ御挨拶をお願いしたいと思いますが、毎回こう回っていくと柴田さんがいつも始めですけどいいですか。一言、まだ15分ぐらいありますけれども簡単に。

(柴田委員)

はからずもといいますか、私でよかったかどうか分かりませんが、構想協議会委員、それからワーキング委員に選任されまして、私なりに無い知恵を絞ってきたわけですが、皆さんから頂いたいろいろな資料とか御意見とか、私にとっては大変有効なものでありまして今まで、現職を離れて既に13年になるものですから頭の中がぼやけていましたけれども、少し活性化に向けてそういったものが働いてくれたなと感じております。特に大学の統合問題は、私も卒業生でありまして同窓会の事務局をしばらく担当しましたので、大変責任ある立場で意見を述べさせていただきました。今日、まとめが一応できましたのでほっとしているところですが、これから同窓会もこういったまとめなり、これからのことも含めまして少し議論する機会があって、またもし何かいい提案が出れば、私としてはありがたいなと思っております。

足を引っ張るようなこともあったしお役に立たないことが多かったと思いますけども、長い間、本当にありがとうございました。

(篠原座長)

小長谷委員。

(小長谷委員)

静岡市としても今回の静岡大学の改革問題に関わることができ、またいろいろな部分でコミットすることができて私どもも非常に喜んでいるところであります。特に、これからのありようを考えると非常に重要な時期であります。したがって、私どもが静岡大学さんに求めるのはやはり地域のニーズにきっちり応えられる総合大学、静岡県に冠たる総合大学として、ぜひこれからも頑張ってもらいたいというようなこと。そしてそのためには地元だけでなく県内外、また外国からも注目される研究拠点であってほしい、また学生さんに集まってもらえるような大学であってほしい。このまとめの文章の最後の文章にもつながる部分ですが、ぜひそういった形でドラスティックな改革を断行して、ここ30年、50年、静岡市、静岡大学が発展するような方向でぜひ関係者の皆さんには御尽力いただければと思っています。

今回、少なくともいろいろな形で、これだけ多くの関係者の皆様にお集まりいただいてこのような取りまとめができたことにつきましては静岡市としても非常に喜んでいるところでございまして、これまでの関係者の皆様の協議、調整いただいた皆様と、座長を含めて多くの皆様に感謝を申し上げたいと思います。また事務局、静岡大学の事務局の皆さんに対し

でも感謝を申し上げるところであります。

これは今、取りまとめということでもありますけども、これが改革の第一歩であるかなと思っていますのでぜひ、このような議論の経緯を踏まえて積極的に改革をしていただいて、ぜひ世界に冠たる静岡大学に育っていただきたいなと思いますし、私ども静岡市としても引き続き一緒になって関わりを持たせていただければと考えております。本当に長い間の御議論、ありがとうございました。

(篠原座長)

今井委員。

(今井委員)

私は県立大学ということで大分、立場が違うところで何か勝手なことを申し上げてしまいましたけれども、こういう機会の皆様方と顔見知りになったこと、非常に私としてもありがたく思います。特に、大学は何のためにあるのかをやはり一から考え直さなきゃいけないなと思ひまして、要は、これは難しい問題ですけれども、ただ大学の歴史を考えると、大学は結局、学生との契約から成り立っています。それで、それまでの権威ある修道院から独立したのものとして出てきたのがヨーロッパの大学の原点になりますから、そういう形で大学というものは何でしょうかということをもたえながら、自分たちの大学についてもそうですし日本の大学についてもやはり考えて進んでいくべきかなと思ひました。この議論に加えていただきまして、どうもありがとうございました。

(伊藤委員)

ありがとうございました。私は当該学生として、協議会に参加させていただきましたけれども、本当に学び舎である大学の将来に関わる、本当に大きな協議会の場に参加させていただいたことによって、本当に静岡大学のことをすごく好きになりましたし、思いが増してきました。やはり少しでも、ここでたくさんの学びを得ることによって少しでも世の中のために尽力できるような人間として歩んでいきたいなとより強く感じましたし、一人の静岡市民として、また静岡県民として、静岡大学が両方の発展、地域の発展につながるような、そんなキーの場所になるような、そういった場所であってほしいと思います。

そして、本当に世界に羽ばたく静岡大学であり続けるためにもこの協議会があつてよかったと思えるような、ここがきっかけだったと言えるようにあつてほしいなと思います。本当にありがとうございました。

(丹沢委員)

このたびは多くの委員の方々に貴重なお時間をいただいて、本当にありがとうございました。

た。これだけ時間をいただいて結論をいただいたわけですから、これを生かさないのは、これはもう完全に大学のサボリになってしまうわけで、本当にここから何かを生み出したいと思っております。その一つとして、既に新学部設置構想ではワーキンググループが大学内で動き始めておりますし、それから静岡市さんとはSDGsの推進に向けて新たな取組を、今、検討を市企画局と始めておりますけれども、そういった動きが具体的に起こってまいりました。そういう意味で本当に協議会でいただいた提言は我々にとっても貴重だったなと思っております。

ただ、新学部設置にせよ、学部定員増等の国の方針転換がありますけれども、これは恐らく全国の地方国立大が一斉に手を挙げてくるはずでありまして、その中で静岡大学がそれを勝ち取るためには、相当思い切ったことをやっていかないと、これは無理だと個人的な肌感覚として僕は持っております。そういう意味で本当に、枠組みを含めて大胆な検討が必要だろうと思っておりますので、今回、いただいた提言等を参考にしながら、また日詰新体制の下で静岡大学が発展のために検討を進めていかれることと思っております。私もこの3月で理事を退任いたします。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(野田委員)

ありがとうございます。このような大変に貴重な協議会のメンバーに加えていただいたこと、まずは御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

なかなかお役に立てるようなお話、発言等々できなかつたかもしれないですけども、やっぱりこういった連携とか、今後、本当にSDGsを意識してやっていくのであれば地域連携は確実に外せないものということを非常に、改めて感じた次第でございます。

実は地元のある優良企業の社長と対談をさせていただく機会がありまして、そこは大学に寄附もしていただいたり、インターンを受け入れていただいたり、採用もしていただいたりという所ですけど、トップの方が、実は静岡大学は非常に敷居が高いんだと、何でもっとこう下りて来てくれないんだという苦言を話されていたことがすごく心に残ってしまいました。これは多分、明らかにコミュニケーションとか連携を意識したときの役割分担とか、コミュニケーションが足りていなかったのかと。それは逆に、そういう苦言をいただくのはもっともっと来てほしいという、そういう裏返しの御要望だったかなと思いました。これも数年前の話ですけども、今は、また変わってきているとは思いますが。そういう意味において今後、本当に地域連携を意識してやっていくのであれば、さらなるコミュニケーションをやっていく中でまた新しいアイデアであったり新しい発想であったり、新しいビジョンみたいなものが見えてくると思っておりますので、私から今回、こういう形でオフィシャルの協議会が行われましたけれども、先ほど小長谷委員もおっしゃっていただきましたけど、ぜひ継続的に、オフィシャルじゃなくてもいいので大学、地域自治体あとは地域の企業、これは商工会議所の人もそうだと思いますけど、それとさっきまさに伊藤委員がおっしゃってました

けど、学生さんなんかにも入っていただいてこういうようなワーキンググループというか、そういうものをぜひ定期的になさったらいいのではないかなと思いました。何も、経費を使ってでなくても、オンラインで何でもできる時代になってきましたので。ただ、やっぱりそういう意味合いでのこのコミュニケーションをさらに強化しつつ、これからの静岡大学の発展を皆で応援して盛り上げていくような立ち位置にいたいなと思いましたので、ぜひ引き続きよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

(日詰委員)

私も昨年の1月にこの協議会が発足したときからこの協議会の中に加えさせていただきまして、いろいろな議論に参画させていただきまして本当にありがとうございました。

特に各界の委員の皆様から非常に参考になる御意見をお聞きすることができて私自身としても大変参考になることがたくさんありました。今、野田委員からコミュニケーションの話が出てきましたけれども、実は十数年前、ゼミの学生と地域との方々と、静岡大学と地域がどういう関係を構築したらいいのかというようなことを少し議論したことがありましたが、そのときに地域の方々が発した言葉が今でも忘れられないですけれども、静岡大学はベルリンの壁だと言われました。それだけ非常に敷居の高いところだったんだなと、つくづく思ったわけです。やはり、これから大学は非常に厳しい環境の中に置かれ、またこれからもそういう状況が続いていくと思いますけれども、やはり地域の皆様の御理解といったものがないとなかなか大学を運営、経営していくことが難しくなるだろうなどは感じております。そういうことと言えば逆に、待っているのではなくて大学がもっと地域へ出ていくようなことをこれから心がけていかなければいけないとつくづく感じました。

今回、協議会のまとめをしていただきまして、また丹沢先生から私に、これをいただくことになると思いますけれどもその中に、5番目のところで本当にいろいろな提言をいただいております。これは非常に大事なことばかりでして、これから静岡大学をどういう方向に持っていくかといったとき、非常に参考となる御意見がたくさんありましたので、これをぜひ大事にさせていただきたいと思います。加えて、今井先生からもお話がありましたように、大学はそもそも何のためにあるのかも常に考えていかなければいけないと思いますし、そこで学ぶ学生たちとの関係といましようか、そういうものもより強めていくことが必要だろうと感じました。

また、併せて小長谷副市長からもお話がありましたドラスティックな改革、どこまでドラスティックなことができるかどうかは分からないですけれども、学内に戻ってこの辺のニーズあるいは動きが地域社会の中にはあって、そういう流れの中で大学が見られていることをぜひ共通認識として持っておきたいなと思いました。

協議会から多くのことを学ばせていただきまして、本当にありがたく思っております。これから、ここで学んだことを4月以降、本当に生かしていきたいと考えております。どうも

ありがとうございました。

(松永委員)

私は、協議会のメンバーとともに、ワーキンググループのメンバーとしても参加させていただきました。そうした中で皆さんの意見、非常に私と違った視点を持った意見を聞いて、非常に参考になったとともに、特に数年ぶりにパワーポイントで資料を作って、先ほどの柴田委員じゃないですけど頭が活性化したといいますか、久々に頭を使った気がします。そうした中で、静岡商工会議所という立場で参加させていただきましたけれども、私どもから県あるいは市に対して、土木あるいは建築学部創設をと、長年要望してきた内容につきまして、今回、提言の中で具体的に入れていただいたことで一歩進めたのかなと思っております。

私の発表の中でもお伝えしましたが、静岡県は非常に広い地域がある中で、やはり東部の大学が少ないということがありますので、静岡大学としてもやはり国立大学という非常に求心力の高いメリットを生かしていただいて、ぜひ総合大学として魅力あるブラッシュアップをしていただいて、ぜひ選ばれる大学になっていただきたいと思います。私も、何かありましたらこれからもお世話させていただけると思います。参加させていただいて本当に勉強になりました。ありがとうございました。

(篠原座長)

ありがとうございました。

それでは、私からも一言ぐらいですが、まず皆様のいろいろな意見がこういう形、提言という形でまとめられたことに本当にほっとしています。反省としましては、少し時間がかかり過ぎたかなという思いはもちろんありますが、コロナ禍ということで仕方がなかったかなとも思っております。そういう意味では委員の皆様の日程調整などに多分大変、頭を悩ませたと思われる事務局の皆さんには本当に感謝しております。私が最初に受けたときは、静岡大学と浜松医科大学の統合再編について、静岡市側があまりよく知らないんじゃないかという、ステークホルダーにあまり意見が行ってないんじゃないかというようなことがスタートだったような気がします。冒頭で話しましたが、静岡大学の目指す将来像が地域の関係者に十分共有されてないということで話を始めて、そういう中でこういう将来像みたいなものが出てきたことについて、私、本当によかったなと今、思っております。あと、本当の個人的なことで言うと、さすが静岡大学というか、静岡県における存在感が大きくて、報道されるたびに友人から、篠原、おまえは何をやっているんだというようなことで、いろいろと電話がありました。それはさすがに静岡大学の存在感の大きさ、もちろん中には、そらあんなもの当たり前だ、浜医と工学部は一緒になったほうがすっきりしていいよと言っているやつもいるし、おまえ、静岡、どうしたんだ、これがなくなったら誰でも静岡のやつは反対するよとか言うやつもいましたし、そういう中での議論だったと思います。先ほども言いま

したけど、少なくとも最初は統合・再編の可否のような気がしていたけど、最終的には静岡大学の将来像みたいな形になったのでそれはよかったかなと、これからもっともっと後までというのか、ずっと皆さんの評価に堪えるものができたんじゃないかなと思っております。

それと5番のことについて言うと、あまり総花になっちゃうと実は何もできなくなっちゃうんじゃないかという不安もありましたけれども、ぜひこれは強弱をつけて、すぐにやるものとか、やらなきゃならないものは強弱をつけながら、またやっていただければいいのかなという、そのような気もしました。

本当にいろいろと皆様の御協力でここまで来ました。ありがとうございました。

本日、予定していました議題は以上です。委員の皆さんにはこれまでの円滑な進行に御協力いただきまして、本当にありがとうございました。

このまとめの内容を受けまして、静岡大学がよりよい方向に発展し続けること期待し、併せてこれまでの間、各種調整に御尽力いただきました関係の皆様へ感謝申し上げ、さらに委員の皆さんの御健勝と益々の御活躍をお祈りいたしまして、本日の協議会を終了いたします。それでは、進行を司会にお返しいたします。